

## 平成18年度2月 品川区学力定着度調査

### 小中連携による学力向上に向けた取り組み結果の公表

## 目 次

### 1 7年生の調査結果等から見られる5～7年生の課題

- (1) 日野学園7年生の結果から見た5・6年生の課題（国語・数学共通）
- (2) 区内7年生全体の傾向を踏まえた分析、課題の明確化（国語）
- (3) 区内7年生全体の傾向を踏まえた分析、課題の明確化（数学）

### 2 課題に基づいた5～7年生の目標

- (1) 今後の指導・対策の目標（国語）
- (2) 今後の指導・対策の目標（数学）

### 3 課題解決のための方策

- (1) 基本方針
- (2) 具体的な対策

## 1 7年生の調査結果等から見られる5～7年生の課題

### (1) 日野学園7年生の調査結果から見た5・6年生の課題（国語・数学共通）

国語、数学とも大部分の設問が、習熟基準を上回る正答率であり、全体的な定着状況は高いといえる。したがって、これまで行われたきた学習を反映し、概ねよい成果をあげているので、現在行っている学習は引き続き指導を重ねていく方向でよい。その一方で、習熟基準を下回る正答率の設問もあり、今後、その部分は、重点的に改善・対策をしていくことが必要であることが明らかになった。

### (2) 区内7年生全体の傾向を踏まえた分析、課題の明確化（国語）

漢字では、「読み」はよいが、「書き」は努力を要するというのが区全体の調査結果から明らかになっている。日野学園7年生の調査結果でも、同音異義語や形の似ている漢字に習熟していない傾向が見られた。

言語事項では、「主語・述語の関係」「修飾・被修飾の関係」「敬語の使い方」「慣用句の使い方」等が習熟基準を下回っている。日野学園7年生の調査結果でも、「主語・述語」や「修飾語・被修飾語」の関係を問う問題は正答率が低く、理解が不十分であったと思われる。また、「慣用句」の使い方に関しても、意味を正確に把握できていないための間違いが多く見られた。

説明的文章では、「内容をとらえて適切に書き表すこと」が習熟基準を下回っている。日野学園7年生の調査結果でも、「内容をとらえて適切に書き表す」問題は、正答率が低かった。

### (3) 区内7年生全体の傾向を踏まえた分析、課題の明確化（数学）

計算では、「小数×小数の計算」、「あまりのある小数÷小数の計算」では、正答率が習熟基準より高い傾向にある。また、「分配法則を用いた計算も」も高い。それにもかかわらず、日野学園7年生の調査結果では、これらの正答率が低い傾向にある。

数量関係では、「2つの量が比例する関係をいろいろな関係のものの中から選択する」問題は正答率が低い。日野学園7年生の調査結果でも、同様である。日常の中にある数量関係を数学的にとらえることが苦手な傾向が見られた。

図形では、「立体の体積や表面積を求める」問題では正答率が習熟基準を下回っている。日野学園7年生の調査結果でも、同様である。

## 2 課題に基づいた5～7年生の目標

### (1) 今後の改善・対策（国語）

- ・ 書き誤りやすい漢字については、授業の中で意識的に取り上げ、注意を促し確認する指導を行いたい。また、繰り返し漢字を書かせる指導を徹底することで、自ら学習をする習慣を身につけさせたい。さらに、例文や作文の中でも積極的に漢字を活用させ、語彙力を育成する指導も継続的に行うことで、漢字を書く力を伸ばす。
- ・ 1年から7年まで「漢字ステージ100」を利用した学習によって、漢字の正しい形や筆順、語例や例文による語彙理解、作文への活用等の指導を行い、弱点補強をする。
- ・ 8・9年、特に8年への指導については、必修授業及びステップアップ学習Ⅰでの指

- 導を継続的に行い、正しい漢字を繰り返し書くことによって、漢字の力を補強する。
- ・ 文法や語句の知識については、「文法」や「言語」の分野で指導するだけでなく、読解指導や作文指導で積極的に取り上げ、日常の会話においても正しく使用できるよう、繰り返し確認する。
  - ・ 文章中の様々な表現から登場人物の行動や心情を読み取り、全体の内容もつかんでいく指導する。
  - ・ キーワードに注意しながら読み、文章構成を理解させる。また、問題の条件（何文字以内や、「～から」などで終わるなど）に合わせた解答の仕方を理解させることも必要である。読解指導だけではなく、作文やスピーチにおいても論理的に説明させる学習を行う。
  - ・ 自分の伝えたい事柄を明確にし、具体的に表現できるよう、引き続き指導を行う。

## （２）今後の改善・対策（数学）

- ・ 小数の計算は、整数や分数の計算と並んで数学の必要な基礎学力のため、必修教科や習熟度別学習、ステップアップ学習Ⅰなどを通じて、１学期間、継続した指導をしていく。
- ・ 比例・反比例での学習は、式やグラフの利用にとどまらず、日常生活の中の数量関係にも利用出来るよう、比例・反比例の考え方やその利用方法を指導していく。必修教科の「１次関数」の単元や、習熟度別学習、ステップアップ学習Ⅰなどを通じて指導をしていく。
- ・ 図形分野は生徒が興味を持って組める分野であるため、必修教科の中でも時間を設けて取り組んでいく。また興味のある生徒にはステップアップ学習Ⅱ・Ⅲなどを通じて扱っていく。

## ３ 課題解決のための方策

### （１）基本方針

小中一貫校として、小中一貫教育カリキュラムに基づいて９年間の学習活動を通して、基礎基本の定着と応用力を高めていく。まず、１～４年は、基礎基本の定着を徹底させる。次に、５～７年では、一貫校の特色でもある中学校の教員による教科担任制をどの教科にも導入し、専門性を生かした指導によって、基礎基本のさらなる定着と発展的な学習の基礎となる力を付けていく。さらに、８・９年は、基礎基本を確実なものとし、発展学習に取り組む態勢を構築していく。

また、豊かな人間性を身につけ、社会力を育むために、市民科の授業を充実させるとともに、学級・学年での活動、小中一貫校ならではの異学年の活動、学校行事などを実施することで、多面的な学力と豊かな心を育てていく。

- ・ 小中一貫教育カリキュラムの実施と教科担任制の実施。
- ・ 都・区講師の適正な配置と活用。
- ・ ステップアップ学習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの充実。ステップアップ学習Ⅰ（根っこの時間）による基礎基本の定着、ステップⅡアップ学習における学習キャリアアップ、ステップⅢアップ学習での問題解決学習。

- ・習熟度学習、少人数学習、個別学習など様々な学習形態の展開。特別支援教育の推進。
- ・小中一貫校の特色を最大限に活用し、豊かで多面的な学力と豊かな心の醸成。

これらの、基本方針は、本学園が5月に公表した「平成18年度2月実施 学力定着度調査の結果」と同じである。今回、連携している小学校と4校検討委員会設置した結果この方針確認し、さらに進めていくということになった。

## (2) 具体的な対策

- ・ステップアップ学習Ⅰ（根っこの時間）における基礎基本の徹底

1～9年すべての学年において、毎日の25分間の小刻みな学習の積み上げによる基礎基本の徹底を図っている。5・6年では、引き続き国語・算数・英語の3教科で実施しするが、教科担任制の導入により、より一層の基礎基本の定着を図る。また、7年では、5教科すべての教科について全員に輪番で学習させることで、小学校での学習の基礎基本を振り返って学習すると共に、すべて教科の基礎基本を徹底させていくようにする。

基礎基本の指導の中で、学力調査では、正確さに欠けることが指摘されている。その点を改善していくように、基本的な漢字の書き取りやや計算練習等を反復練習させ、各担当者も十分配慮し、指導していく。

- ・ステップアップ学習ⅡⅢで目指す学力向上

児童生徒の学習の状況・学習内容に応じて、習熟度別学習、少人数学習、チームティーチング、個別学習指導など、様々な学習活動を展開し、一人一人の学力を向上させていく。また、非常勤講師や習熟度別学習対応指導助手を活用し、さらに、学習課題に応じてグループ構成を変えたり、教室を移動させたりする等、きめ細かな指導の体制をつくっていく。

- ・特別支援教育も含めた多様で個に応じた学習形態の導入と授業の改善

児童生徒の学習の状況・学習内容に応じて、習熟度別学習、少人数学習、チームティーチング、個別学習指導など、様々な学習活動を展開し、一人一人の学力を向上させていく。また、非常勤講師や習熟度別学習対応指導助手を活用し、学習課題に応じて、きめ細かな指導の体制をつくっていく。

- ・小中一貫の連携校の教育活動による学力の向上

本学園では、第一日野小、第二日野小、御殿山小と連携して、研究活動を進めている。その5本の柱の中で、特にステップアップ学習の領域で連携を図り、方法や内容面での改善・重点化を進めている。具体的には、実施方法・内容のすり合わせを行い、小中一貫の良さを生かした教育活動を展開し、学力の向上を図る。